

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakû

42

表紙：クラフト“落ち葉の暖炉と冬のぬくもり”

落ち葉で作られた暖炉の中では、赤い炎たちが楽しそうにゆらめいています。

寒い冬の夜も、みんなの心をほっとあたためてくれそうです。

まわりにはツリーやプレゼント、赤い靴下が並び、クリスマスのわくわくした気持ちが伝わってきます。

自然の素材と子どもたちの想像力がつくり出した、やさしい冬のぬくもりが感じられますね。

アイデアを お待ちしております！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の
最新ニュースやトピックなど皆さまに
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしております！

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2025年11月発行 Vol.42

次回 1 月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

☎ 530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com



★卒園生がキンダーキッズでインターンシップ体験

★海外一時転園体験記 ★25周年記念イベント Special Report

★兵庫エリア&カナダ・ハワイ各校「ひかりの実」プロジェクトに参加！

★英検合格者 File 011 ★Staff training



日本の心と、英語の力。Kinder Kids Inc.

卒園生が再びキンダーキッズへ “学び”を支える仕事の中で 感じた発見



大阪公立大学法学部
N.I.さん
茨木彩都校卒園

幼いころにキンダーキッズで学び、今は大学で法律を学ぶ N.I. さん。
そんな彼女がキンダーキッズでインターンシップを体験しました。
かつての教え子が、社会を見つめる一歩を踏み出す——。
その舞台は、やはり彼女の原点「Kinder Kids」でした。

再びキンダーキッズへ ——原点の場所で見つめた新しい学び

幼いころ、キンダーキッズで過ごした日々は、私にとって“学ぶことの楽しさ”を教えてくれた時間でした。その経験が心に残っていて、いつかもう一度キンダーに関わりたという思いがありました。英語の飛び交う環境で働いてみたいと思い、その気持ちを手紙に書いてお伝えしたところ、快く受け入れていただき、この夏インターンとして参加できることになりました。インターンの場所は、天王寺夕陽丘校内のカリキュラム制作部でした。久しぶりにLloyd先生にお会いし、英語で会話をしながら当時の自分を思い出しました。幼いころに学んだ場所に、今度は“支える側”として関わることがうれしく、少し誇らしくも感じました。初日からチームの皆さんが温かく迎えてくださり、AIと著作権に関するリサーチや資料づくりに取り組みながら、学ぶ側から働く側へその視点の変化を肌で感じる時間になりました。

AIと著作権 ——リサーチを通して感じた“法と教育”のつながり

今回のインターンでは、「生成AIと著作権」をテーマにリサーチを行いました。オリジナルキャラクターにAIツールを使用する際、どのような点に注意すべきでしょうか？ 教育の現場でAIを使うとき、どんな点に気をつけるべきなのか、日本と海外の法律を比較しながら調べるうちに、思っていた以上に複

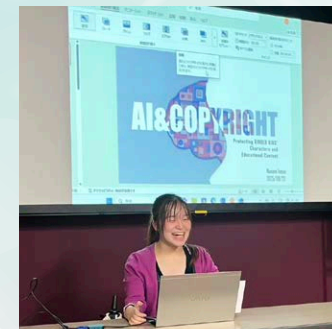


卒園式で、恩師 Lloyd 先生と

雑で難しく、それでも調べるほど面白さを感じました。特に印象に残っているのは、最終日に行った英語でのプレゼンテーションです。法律用語や専門的な内容を英語で説明するのはとても難しく、伝えるための言葉を選ぶことの大切さを改めて感じました。Lloyd 先生やカリキュラム制作部の皆さんが熱心に聞いてくださり、発表後に英語で質問を受けたときは緊張しましたが、そのやり取りの中で「法律は人の学びや表現を守る仕組みでもある」ということに気づきました。リサーチや発表を通して、これまで授業で学んできた“知識としての法律”が、実際の社会や教育の現場にどう関わっていくのかを実感できたのは、大きな収穫でした。そして、英語を使って学びを発信できたことも、キンダーで育った自分らしい挑戦だったと思います。

学びを支える人へ ——インターンを通して見つけた目標

今回のインターンを通して感じたのは、自分が学んできたことを、誰かの学びにつなげていくことの大切さです。法律という分野も、難しい理屈の集まりではなく、人の努力や表現、そして学びを守るための仕組みなのだ実感しました。カリキュラム制作部での経験は、将来の方向性を考えるうえで大きなヒントになりました。これからは、教育や子どもたちの学びを支える分野で、自分の力を生かしていきたいと思っています。そして、何よりうれしかったのは、かつて通っていたキンダーキッズで再び英語を使って働けたこと。あのころの自分が憧れていた「英語を使って世界とつながる」という夢の一歩を、少しだけ形にできたような気がします。



インターン最終日には英語でのプレゼンテーションを見事に遂行



お世話になった皆さんと



カリキュラム制作部
Lloyd Waggott

“Once a Kinder Kid, always a Kinder Kid.”を実感したインターンシップ

Nさんがインターンとしてチームに加わると聞いたとき、本当にうれしく思いました。幼いころに共に過ごした時間のことは今も鮮明に覚えています。今回の再会を通して、幼少期という貴重な時期をどう過ごすかの大切さを改めて感じました。彼女は、英語と日本語の両方で自信をもって表現できる、バランスの取れた人物に成長しており、その基礎がキンダー時代にしっかり築かれていたことを感じます。幼い頃から知っており、今では大学生としての成長を見守ることができるのは、教育者としてこれ以上ない喜びです。久しぶりに会った彼女は、昔と変わらず前向きで温かく、それでいて落ち着きと自信を備えていました。最終プレゼンテーションではその姿が輝き、今度は私が彼女から学ぶような気持ちになりました。私たちはよくこう言います——“Once a Kinder Kid, always a Kinder Kid.”今回、それを改めて実感しました。

海外一時転園体験記



キンダーキッズ
オークビル校

J.K.ちゃん（扇町校／K2）

転園期間：2025年4月28日～5月13日

2025年春、キンダーキッズ扇町校 K2クラスの J.K. ちゃんが、カナダ・オークビル校に約2週間転園しました。現地の先生や友だちとの新しい出会いを通して、英語での生活に自信を深めたそうです。今回その経験についてお母様にお話を伺いました。

海外転園に挑戦してみた

キンダーキッズには1歳の頃から通っており、入園当初から海外トランスファー制度を知っていたので、いつか体験させてみたいと考えていました。自分の意思で話ができる年齢になった今が良い機会だと思い、参加を決意。将来的には海外での生活も視野に入れており、その予行練習にもなりました。日本語を使わない環境でどのように過ごすのか、親としても興味深い挑戦でした。現地では先生方が温かく迎えてくださり、初日から安心して学校生活を始めることができました。放課後には、クラスメイトのご家庭とピクニックをする機会があり、フードを持ち寄りおしゃべりを楽しむなど、自然に交流が生まれました。国は違っても、子育ての話題で盛り上がる感覚は共通で、とても親しみを覚えました。

人とのつながりが広がった日々

滞在中は、お誕生日パーティーに招かれたり、ご家族のレストランに食事に行かせていただいたりと、温かいご縁に恵まれました。特に印象に残っているのは、マクドナルドで偶然出会ったご家族と、後日のピクニックで再会した出来事です。その方がクラスメイトの保護者の親戚だったことが分かり、「It's a small world!」と笑い合った瞬間は今でも心に残っています。

こうした出会いは、娘が自分から積極的に話しかけたことがきっかけでした。人懐っこい性格もあり、すぐに周囲と打ち解け、保護者の方々からも「こんなに話しかけてくれた子は初めて!」と声をかけていただくことも。娘の明るさや行動力が多くのつながりを生み、親子ともに心温まる時間となりました。



異文化の中で見つけた、子の新たな一面

「行ってよかった」の一言に尽きますが、この滞在を通じて私たちは、日本での日常では気づきにくかった、娘の持つ潜在的な力を発見しました。

予期せぬ環境変化への冷静な対応

渡航初日、機材トラブルにより、当初予定していたバンクーバーからの直行便が真冬のイエローナイフ経由となりました。雪が降りしきる極寒の中、半袖短パンという予想外の状況に親が困惑する一方で、娘は戸惑う様子を見せることなく、その予期せぬ環境変化すら受け入れ、楽しんでいるようでした。私たちは娘を天真爛漫な性格だと認識していましたが、この非日常的な状況で示されたのは、私たちが思っていた以上の落ち着きと柔軟な対応力でした。環境に適応し、常に明るく前向きでいようとする娘の姿勢に、頼もしさを感じました。

臆することなく踏み出す、コミュニケーションの積極性

現地での生活において、特に印象的だったのは、娘の積極性です。

日本のスクールで英語に触れてきたとはいえ、現地のネイティブのクラスメイトとの間には、語彙や表現力の差があるのは事実です。しかし、娘はその差を気にする様子を一切見せません。完璧な英語を話そうと立ち止まることなく、知っている言葉やジェスチャーを使い、ためらわずに交流の輪へ入っていく姿がありました。これは、日頃から「人類みな友達」という感覚を持つ娘の、言葉の壁を越えようとする純粋なコミュニケーション能力が、新しい環境で強く発揮された結果だと感じています。慣れた日本での生活の中では、なかなか見ることはできなかった一面でした。

トランスファー体験が教えてくれたこと

このトランスファー体験は、私たち親にとって、娘の新たな能力や可能性を発見する貴重な機会となりました。同じキンダーキッズに通われている保護者の方々へ、この経験から感じたことをお伝えします。このような非日常的な環境に身を置くことで、子どもたちは、親が普段抱えている、理解しているイメージを超える、予期せぬ柔軟性や積極的な姿勢を示してくれることがあります。

日本での日常の中では見えにくい、我が子の真の対応力を目の当たりにできることが、この体験の大きな価値の一つだと感じています。私たちはこの滞在を通し、娘に教えられ、また一歩成長した姿を見ることができたことを心からうれしく思っています。

この経験は、これから家族で世界を体験し、様々な経験をしていこうという決意を新たに、とても素晴らしい滞在となりました。



海外一時転園についての詳しい情報は、[Kinder+> \[コンテンツ\] > \[グローバルトランスファー\]](#) をぜひチェックしてみてください。海外校の基本情報や、過去の体験記も掲載されています！

25周年記念イベント

Special Report

キンダーキッズ 25周年を記念して、
全国各地で笑顔あふれるイベントが開催されました。
その中から9月実施の3イベントの様子を
お届けします。



Autumn Fun Day@馬事公苑

関東の周年イベントは、広大な馬事公苑で開催しました。先生たちのクイズに答えながらスタンプラリーを楽しみ、ポニーの登場に子どもたちは大興奮！世田谷校の給食でお世話になっているリナトキッチン様を貸し切ったのピュッフェでは、美味しいご飯とともに、お友達や先生との再会を喜ぶ姿が見られました。

輪投げや手形で虹色の記念バナーを作るコーナー、Excited Foxとの写真撮影など、笑顔あふれる充実した一日となりました。



ポニーに
タッチ！
DOKI DOKI!



So happy with Excited Fox!



阿波座フェスティバル



阿波座校と周辺地域が一体となって盛り上がった「阿波座カラーフェス2025」。園内ではキンダー生のためのクラフトやゲーム、限定グッズ販売、Moon RockersとExcited Foxのステージで大盛況！園庭では一般の方も英語でゲームを楽しみ、キッチンカーにも長い列ができました。

地域の皆様のご協力のもと、笑顔と交流があふれる一日となりました。



今年も大人気の
キンダーキッズオリジナル
フォトブース♪



ゴルフコンペ@太子カントリークラブ

秋晴れのもと開催された25周年記念ゴルフコンペには、約100名が参加。企業の皆さまや保護者同士の交流も生まれ、和やかな雰囲気の中でプレーが行われました。

参加者全員には「キンダーキッズ × Titleist」25周年記念ゴルフボールが贈られ、特別な一日をさらに彩りました。



秋晴れのグリーンで、
笑顔の一日に
なりました！

これからも家族で楽しめるイベントをどんどん開催していきます！

世界をつなぐ“笑顔の光”が六甲山に灯る

キンダーキッズ兵庫エリア&カナダ・ハワイ各校

「ひかりの実」プロジェクトに参加！

撮影：神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond

六甲山で開催されているアートイベント「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」の参加型作品『ひかりの実』に、キンダーキッズの兵庫エリア5校と、カナダ・ハワイの海外校が参加しました。子どもたちは“笑顔”をテーマに思い思いの表情を描き、その作品がLEDの光で森の中をやさしく照らします。国や地域を越えて子どもたちの笑顔がつながるこの活動への参加は、キンダーキッズが大切にしている「多様な世界の中で共に感じ、考える力を育む」学びの実践として行われました。

「笑顔で世界を照らそう」兵庫5校が1つになって参加

兵庫エリアでの参加のきっかけとなったのは、神戸シーサイド校の保育主任からの提案でした。六甲山で開催されるアートプロジェクトということもあり、シーサイド校が中心となって他の兵庫エリアのスクールにも声をかけたところ、全5校が参加することに。子どもたちが自分の描いた“笑顔”の絵が夜の森の中で光るという特別な体験を通して、「自分の表現が誰かを笑顔にできる」という喜びを感じてほしい——そんな思いが参加の原動力になったといいます。



笑顔あふれる制作時間—— 描くこと、思いやることの楽しさを学んで

制作当日は、子どもたちの笑顔と笑い声が絶えませんでした。「どんな顔を描こうかな?」「ママが笑ってる顔にする!」など、思い思いに話しながら夢中で筆を動かしていました。“笑顔”というテーマに向き合う中で、子どもたちは「好きな人を思い浮かべる」「誰かが喜ぶ顔を想像する」といった、心の中の温かい気持ちを表現していました。中には「これ



「ひかりの実」とは?

現代アーティスト高橋匡太さんによる、参加型の光のアート作品。「神戸六甲ミーツ・アート 2025 beyond」の展示作品の一つとして、子どもたちが描いた“笑顔”を光の球体にして森の木々に灯します。夜の六甲山をやさしく照らす、あたたかな光のアートです。



を見た人も笑ってくれるかな?」と話す子どももおり、絵を通じて“自分の表現が人の心に届く”という体験をしていたようです。この活動を通して、表現の楽しさと、他者を思いやる優しさの両方を育む時間になりました。

国や地域を越えてつながる笑顔—— 世界の子どもたちと共に描いた“ひかり”

今回の「ひかりの実」プロジェクトには、カナダとハワイのキンダーキッズの子どもたちも参加しました。

カナダ・クラークソン校では、アーティストの高橋匡太さんによるオンラインワークショップが行われ、子どもたちは日本とリアルタイムでつながりながら制作を体験しました。画面を通して日本のアーティストと対話することにとっても興味を持ち、「日本は世界の反対側にあるんだ」と驚く様子も見られたそうです。日本語と英語が交互に飛び交う中で真剣に耳を傾け、積極的に手を挙げて答える姿も。距離を越えて同じテーマに取り組む経験は、子どもたちにとって新鮮で、世界の広がりを感じる貴重な時間になりました。

国や言葉を越えてつながった“笑顔の光”。子どもたちが自分の表現を通して世界とつながる体験は、見る人の心にもあたたかな余韻を残します。この小さな光が、未来へと続く学びと優しさの種になりますように。

クラークソン校での
オンラインワークショップの様子



インスタグラムの
投稿もぜひチェック
してください!



笑顔がつなぐ、世界と子どもたちの物語



神戸六甲ミーツ・アート
2025 beyond
六甲山観光株式会社
営業推進部
内藤 紫都 さん

「ひかりの実」プロジェクトを通して、参加する子どもたちには、自分以外の人にもそれぞれの“笑顔のストーリー”があるということを感じてほしいと思っています。自分の描いた笑顔が光となって灯る瞬間、その光のひとつひとつが誰かの想いにつながっていることに気づいてもらえたらうれしく思います。近年、芸術祭として海外アーティストを招聘するなど、活動の視野を広げる中で、「ひかりの実」を海外の子どもたちにも広げたいというアイデアが生まれました。実はコロナ禍の際に、アーティストの高橋匡太さんが海外の子どもたちとオンラインワークショップを行い、このプロジェクトを実施されたことがあり、その経験が今回の国際的な展開のきっかけにもなっています。

海外の子どもたちが描いた笑顔の絵を拝見すると、日本の子どもたちとはまた違う色づかいや表情が見られ、とても興味深く感じました。六甲山小学校の児童が、カナダの子どもたちが描いた「ひかりの実」を取り付ける作業をしてくれたのですが、その絵を興味深そうに見つめる姿も印象的でした。国や地域を越えて笑顔が並ぶ光景には、想像以上のエネルギーがあり、今後さらに広がりのある展開を考えていきたいと思っています。



英検合格者

Examinee

File011

D.K.くん



受験時のクラス	所属スクール
K3	高槻校(現:たまプラーザ校)
受験年月	合格級
2025年6月(2025年度 第1回)	3級、4級

勉強法

K3に進級してすぐに3級と4級を受験しました。家ではお父さんと一緒に過去問を解いたり、英単語やライティング、スピーキングの練習をしました。**分からない単語が出てきたときはすぐに調べて、声に出して覚えるようにしました。**スピーキングの練習では、試験のように英語で質問に答える練習をたくさんしました。

試験で難しかった点

Writingの問題が一番むずかしかったです。質問の内容に知らない話が多く、どう書いたらよいか分からないことがありました。お父さんにアドバイスをもらいながら、何度も練習するうちに少しずつ書けるようになりました。**キンダーキッズで毎週ジャーナルを書いていたことが、とても役に立ったと思います。**自分の考えを英語で書くことは大変でしたが、書くたびにできることが増えていくのがうれしかったです。



独学で挑戦した理由

最初はソダツの英検クラスに通わせるつもりでしたが、K2の2月頃に3級の過去問と一緒に見てみたところ、思っていたより解ける問題が多いと分かりました。ソダツでは3級の6月受験対策を行っていなかったため、せっかくなら早く受験させてみようかと家庭で独学することに決めました。途中でうまくいかなければ通年コースや直前対策コースへの参加も検討していましたが、まずは親子で挑戦してみようということになりました。

家族で力を合わせた挑戦

英検を受けることを決めてからは、本屋で予想問題ドリルや単語帳を息子と一緒に選ぶところから始めました。絵や図が多く、ふりがなが付いているものを選び、息子自身に決めてもらいました。平日は単語帳、休日はドリルという予定を一緒に立て、毎週の進み具合を確認しながら学習を進めました。ドリルは父親も隣で一緒に解き、答え合わせのたびに「この表現ばっちり」「あとこれを書いたら満点やな」と声をかけて励ましました。スピーキング対策では父親が面接官役になり、実際の試験のように繰り返し練習。**ときには息子が面接官役になったり、2歳の妹も参加したりして、家族で楽しく取り組みました。**



独学の良さと難しさ

周りに一緒に勉強する友達がいないかったため、モチベーションを保つのが難しい時期もありました。それでも、**キンダーキッズで身に付いたリスニング力を土台に、英作文とスピーキングの練習に集中できたのは大きな強みでした。**本人のペースで取り組めたこと、そして苦手分野にしっかり時間をかけられたことが、独学ならではの良さだと思います。



やり遂げた家族のチームワーク

ショート保育のため、15時頃に帰宅した後、母親が勉強時間(単語帳中心)の管理をし、食事や遊ぶ時間も十分にとりながらメリハリをつけるようにしていました。単語学習は一日何語ではなく一週間何語進めるという決まりにし、疲れているときは勉強しないのもOKとしました。4級と3級の両方を受験したため勉強量は多かったですが、**家族で楽しみながら取り組むことで、最後までやり抜くことができたのだと思います。**



全校スタッフで学び合う安全と保育の研修

キンダーキッズでは、全校で定期的にスタッフ研修を行い、日々の保育に必要な知識と対応力を磨いています。

9月(名古屋地区はCPRを10月実施)に各地域で行われた今回の研修では、CPR(心肺蘇生法)やエビペン・グルカゴン投与、不審者・水難事故対応など、実際に起こりうる場面を想定し、講師の指導のもとで一人ひとりが真剣に実技に取り組みました。現場での判断や連携の重要性を体感しながら、緊急時にも冷静に対応できる力を養いました。



また、CDM(Childcare Development Manager)主導のもと、「不適切保育を未然に防ぐ」研修も行われました。身近な事例をもとにディスカッションを重ね、声のかけ方や子どもへの向き合い方を見直す時間となりました。互いの意見を共有し合うことで、スタッフ一人ひとりが子どもの人権や気持ちに寄り添う意識を深めています。安全面・倫理面の両面から学び合い、考え合うこの研修を通して、チームとしての結束もさらに強まりました。名古屋地区では、よみたん自然学校の小倉先生をお招きし、自然を活用した野外学習トレーニングを実施しました。おもちゃや遊具を使わず、五感を活かして楽しむゲームを通して、子どもの創造性をどう育むか、カリキュラムと自然をどう融合させるかを学びました。

これからも全国のキンダーキッズの仲間とともに、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを続けてまいります。